

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市広瀬図書館		
2 指定管理者	丸善雄松堂株式会社		
3 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日		
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和5年度 112,396人団体〔個人:111,965人、団体・文庫:431団体〕(前年度比 95.8%) 令和4年度 117,298人団体〔個人:116,911人、団体・文庫:387団体〕(前年度比 108.8%) 令和3年度 107,836人団体〔個人:107,546人、団体・文庫:290団体〕(前年度比 103.5%)		
	《事業》 仙台市広瀬図書館の運営管理		
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 56,100千円 (56,100千円) ・ その他市が負担した費用 8,877千円 (8,350千円)		
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 22千円 (28千円)		
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート 実施期間:令和5年12月10日～12月23日 ・利用者懇談会 開催日:令和6年2月7日		

二 管理運営に係る評価 (モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき管理運営されており、全館共通の業務や行事を適切に行っている。また、サービスの質の向上や利用促進のための取り組みがなされている。	24/24
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績や配置状況及び施設の開館状況は仕様書のとおり適切であり、指定管理料は適正に執行されている。 個人情報保護の取り扱いや図書館情報システムのセキュリティ対策を徹底し、事故防止チェックリストに基づき、事故や苦情等の事例を榴岡図書館と共有し、ヒヤリ・ハット集の充実を図っている。災害発生時の訓練は、関係機関と合同で適切に実施している。	30/30
III 施設・設備の維持管理	建物、設備及び備品は適切に管理されている。複合施設全体で組織するごみ減量委員会に参加してごみの減量に努めており、利用者も巻き込んだ再利用・再使用の取り組みとして不要となったエコバッグ等を必要な人に提供するなど環境へ配慮した取り組みがなされている。	17/17
IV サービスの質の向上	一般書書架の分類表示について、各分類の図書の内容がイメージしやすいよう、ピクトグラムを使用した新たな表示に切り替えた。さらに、表示自体に傾斜をつけることで視認性も向上させるなど、利用者への細やかな配慮がなされている。 職員の教育・研修において、定例休館日に、接遇研修や個人情報保護研修など、全職員が参加する研修を実施し、サービス水準の確保に努めている。また、図書館が果たす地域貢献等に關する研修やブックトーク研修など、職員の資質向上のため積極的に各種研修を受講している。	27/27
V 施設固有の基準	従来の中高生の選書アドバイザーによる選書支援・ブックリスト作成などに加え、近隣の中学校との連携により、同校生徒が作成したおすすめ本の紹介POP166点に図書館職員のコメントを併記し展示を行うなど、独自の取り組みにより中高生の読書活動推進に努めた。また、通常のおはなし会だけでなく、令和5年度の新しい取り組みとして、宮城総合支所の子育て支援事業「あかちゃんくらぶ」に講師を派遣し絵本の読み聞かせを実施するなど、乳幼児から本に親しむ機会の提供を積極的に行った。 自主事業において、前年度も好評だった「広瀬図書館の日」記念事業の館長講演会は定員を上回る申し込みがあり、アンケートでも開催の継続を望む声が多く、図書館のPR、来館機会の創出が図られている。	18/16

三 評価総括

《指定管理者（丸善雄松堂株式会社）による自己評価》
<p>令和5年度の図書館運営は、安定した運営を継続しつつ既存の各種取組における内容の充実に積極的に取り組んだ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本業務は、子育て支援センターでの出張おはなし会などアウトリーチの取組を積極的に行い、内容を充実させた。図書館以外でのおはなし会の実施や読み聞かせの依頼の増加は、こうした対応の成果でもあると考える。 2. 自主事業は、積極的な事業の実施により年間の事業参加者数は延べ5,646人に上った。吉野作造記念館との連携による「ケロッキープーと吉野作造」展の開催により、宮城県の偉人を知る機会の提供を、おはなし会や図書展示といった図書館ならではの取組と関連させて行ったほか、館長講演会にも大きな反響があった。前年度より開始した広瀬市民センター講座での資料展示については、講座参加者に配布するミニブックリストの作成により内容の充実を図った。 3. 利用実績は、前年度比で利用者数、貸出冊数ともに減少しているが、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、行楽に出かける機会が増えたことが影響していると考えられる。 4. 職員に対する教育研修は、リモート参加の利便性を活用しながら積極的に参加した。研修報告書の作成や全体会議での報告による研修内容の館内共有についても適切に継続することができた。 5. 運営の評価は、市民図書館による定例監査への対応を通じて適切な図書館運営の継続に努めた。利用者アンケートの実施では、従来の回答方法にオンライン回答を追加することで、より広く利用者の評価を得ることを目指し一定の成果を得た。 6. 施設管理は、「仙台市公共施設点検要綱」に基づく定期点検を適切に実施した。また、入居施設である広瀬文化センターとの緊密な連絡により効率的な施設管理を行うことができた。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>自主事業においては、吉野作造記念館との連携による「ケロッキープーと吉野作造」展の、絵本の原画レプリカのパネル展や人形劇、大型絵本の読み聞かせが盛況であったほか、前年度も好評だった「広瀬図書館の日」記念事業の館長講演会は定員を上回る申し込みがあり、アンケートでも開催の継続を望む声が多く寄せられるなど、図書館のPR、来館促進に効果的な事業であると評価できる。</p> <p>子ども読書活動推進に資する事業としては、毎年継続して行っている中高生の選書アドバイザーによる選書支援・ブックリストの作成などに加え、近隣の中学校との連携により、同校生徒が作成したおすすめ本の紹介POP166点に図書館職員のコメントを併記し展示するなど、独自の取り組みにより読書離れが著しい中高生への読書活動支援に努めた。また、ベビーサイン協会認定講師による「ベビーサイン体験会」や、外国人講師による「えいごdeおはなし会」のほか、令和5年度の新しい取り組みとして、宮城総合支所の子育て支援事業「あかちゃんくらぶ」に講師を派遣して絵本の読み聞かせを行うなど、乳幼児や小学生と保護者が読書に親しみ、本を通じてコミュニケーションを深める機会の提供を積極的に行った。</p> <p>仙台高等専門学校広瀬キャンパスとの連携事業においては、夏休みに同校から講師を招いて行う小学生対象の工作会が人気を博しており、図書館のPRにも大きく貢献している。</p> <p>仙台市天文台との連携事業においては、例年開催の事業に加え、前年度好評だった天文台まつりにおける移動式プラネタリウムを用いたおはなし会も開催し、継続事業へとつながっている。</p> <p>また、前年度から実施している、広瀬市民センターでの市民向け講座開催時の関連テーマ本の展示が好評で、令和5年度はさらなる内容の充実を図るため、講座参加者向けのミニブックリストの作成・配布を行った。</p> <p>誰もが利用しやすい図書館のための取り組みとして、一般書書架の分類表示について、各分類の図書の内容がイメージしやすいよう、ピクトグラムを使用した新たな表示に切り替えた。さらに、表示自体に傾斜をつけることで視認性も向上させるなど、利用者への細やかな配慮がなされている。</p> <p>職員の教育・研修においては、定例休館日に、接遇研修や個人情報保護研修など、全職員が参加する研修を実施し、サービス水準の確保に努めている。また、図書館が果たす地域貢献等に関する研修やブックトーク研修など、職員の資質向上のため積極的に各種研修を受講している。</p> <p>以上、広瀬図書館の指定管理者は、施設の設置目的に沿って適切に管理運営を行うとともに、地域の施設等と連携しながら職員が工夫をして新しい取り組みや、魅力的な事業を実施し、サービス向上に貢献している点が大いに評価できる。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):教育局市民図書館